

身近な地域の石碑を活用した社会科学習 ～歴史を身近に感じるための教材として石碑は有効か～

竹崎葉子

はじめに

石碑とは、石に業績や事跡を記念する文字を刻んで建てたものや墓石などの総称である。歴史を学ぶ上で重要な史料であるが、これまで中学校社会科の教材としてはあまり使われてこなかった。その理由としては、長い年月で刻まれた表書きや碑文の文字が剥落し読めなくなっていたり、読めても中学生には難解であるということが挙げられるであろう。とくに出雲地方では来待石が石碑に多く使われており、その石質から風化しやすく、長くても200年程度しか原型をとどめないという。

しかしながら、残しておきたい、残しておくべきであると当時の人たちが考えた業績や事跡が記され、身近な地域に数多く残っている石碑を教材化することは、大きな意義があると思う。

生徒が歴史を身近に感じるための教材として石碑は有効か。授業実践から考察した。

1 身近な地域の石碑のデータベース化

平成13年に、「身近な地域の歴史学習」について、島根県下116校の中学校を対象にアンケート調査をおこなった。使用している教材について「どのようにして開発されましたか」という問いに、約半数が「既存の資料を教材としている」と回答している。「どのような教材を使っていますか」の問いでは33%が人物教材、38%が遺跡教材を挙げた。また時代区分では古代25%、中世27%、近世23%であり、この3つの時代区分で全体の75%を占めた。「実施上の問題点」についての記述には、第一に時数が確保できずフィールドワークができないこと、第二に資料不足が挙げられた。

資料不足の理由として、資料収集が困難であることと、文献資料の現代語訳が困難であることや、収集した資料を教材化する時間的余裕がないことが挙げられている。また資料の中でも、近現代の資料不足が顕著であった。

このような問題を解決するためには、身近な地域の歴史資料をデータベース化し、市や校区単位で保存し引き継いでいく必要があると考え、平成14年から松江城周辺の石碑を手始めにデータベース化に取り組んでいる。

パワーポイントを使い、資料1のシートの地図のボタンをクリックすると、資料2のように寺等にある石碑一覧のシートが開く。石碑一覧のシートの石碑名をクリックすると資料3のように石碑の写真と簡単な説明のシートが開くようにした。このデータベースを社会科の授業をはじめ様々な場面で活用している。



(資料1)



(資料2)

朝日丹羽郷保紀功碑



1. 顕彰碑(政治)
2. 外中原
3. 天明3年ごろと思われる
4. 不昧公の墓の階段途中
5. 松江市誌に碑文記録あり
松江藩家老(1705～1783)

宗衍のもとで明和の改革にあたり、次期藩主治癒の後見職につき

月戻へ ▶ ▶ ▶

(資料3)

西南の役記念碑



1. 慰霊碑(戦没)
2. 殿町
3. 明治21年
4. 城山興雲閣前
5. 碑文あり

▶ ▶ ▶

(資料5)

満蒙開拓青少年義勇軍慰霊碑



1. 慰霊碑(戦没)
2. 殿町
3. 昭和52年
4. 護国神社内
5. 碑文あり

▶ ▶ ▶

(資料6)

オリエンテーリング問題

① 現在の千鳥橋は、江戸時代には何と呼ばれていたでしょうか。	橋
② 「電気発祥の地」の碑によると松江に電燈の明かりがついたのは明治何年何月何日でしょうか。	明治 年 月 日
③ 榑谷に榑が植えられたのは何のためでしょうか。	
④ なんじゃもんじゃの木は、長崎県対馬地方と岐阜県河津地方にのみ自生している木でしょうか。	地方
⑤ 城山稲荷神社式年神幸祭は別名何とよばれているでしょうか。	
⑥ 城山稲荷神社には鳥居(とりい)はいくつありますか。	
⑦ 城山稲荷神社の石段は何段ありますか。ただし銀の手すりのある石段を数えること。	段
⑧ 馬洗池の南にあったざりざり井戸の「ざりざり」とは何をさしているでしょうか。	
⑨ 昭和天皇・皇后が松江城に昭和40年6月10日に植樹された木は何の木ですか。	
⑩ 松江郷土館で、10月8日まで開催されている企画展は何ですか。	
⑪ 松江郷土館に展示されている江戸時代に作成された医学書の名前は何でしょうか。	
⑫ 二の丸の太鼓櫓のたいこは何のためにあったでしょうか。	
⑬ 二の丸の再建された番所跡の建物は現在何に使われているでしょうか。	
⑭ 興雲閣の建築費用は当時のお金でいくらでしょうか。	円
⑮ 馬淵(うまだまり)は約何m四方でしょうか。	m
⑯ 興雲閣の南にある丸い形の石碑は、何の戦争でなくなった方の慰霊碑でしょうか。	
⑰ 松江護国神社の階段を上がったところに「満蒙開拓青少年義勇軍」の慰霊碑がありますが、ここに刻まれた漢字2文字を答えなさい。	

チェックポイント

菟田橋	天守閣	郷土館	ゴール(神社サイン)
印	印	印	

(資料4)

2 データベースを活用した実践

(1) 遠足におけるオリエンテーリング(クイズラリー)での活用

遠足は、特別活動として行われる学校行事である。その位置づけについて、文科省は次のような留意事項を通達として出している。

- 遠足・修学旅行の実施のねらいや指導内容をできるだけ平常における各教科等の指導に関連づけること。
- 自然保護や文化財尊重の態度を育成すること。

このことをふまえ、第1学年の遠足に「松江城山オリエンテーリング(クイズラリー)」を実施した。生徒は班になり、班で協力して問題に該当する場所を地図で探し、問題に答えていく。前任校で平成14年に初めて実施してから問題を少しずつ変え、現在も本校で継続している。資

料4にある問題は平成17年度1年生のために作成したものであるが、ここにはデータベースから選択した3つの石碑についての問題がある。このうち資料5「西南戦争戦没者慰霊碑」と資料6「拓魂（満蒙開拓青少年義勇軍慰霊碑）」については、社会科歴史的分野の授業で第2学年に教材として使用した。授業後の生徒の感想に「1年の遠足の時に松江城へ行って、いろいろなことが書かれているのが印象的だった。」「（1年の遠足の時）実際に見たことがあったので興味があつた。」といった内容がいくつもあつたことから、遠足や修学旅行で文化財を見学する際、社会科学習につながる石碑も計画的に見学しておくことは、生徒の学ぶ意欲につながると考える。

(2) 社会科歴史的分野での活用

平成24年度はデータベース化した身近な石碑を教材として使った授業を3回実施した。以下この3回の授業実践を紹介する。

① 「朝日丹波郷保顕彰碑」を使った授業実践

この授業は、平成24年度島根県社会科教育研究会・第30回島根社会科懇話会合同夏期研修会で授業公開し、公開した学級以外では2学期に入ってから実施した。「墓所と石碑の位置関係」と「碑文」から生徒の思考を揺さぶり、深めることをねらって石碑を教材にした。次の学習指導案は合同夏期研修会公開授業のために作成したものである。

1. 単元名 「松江藩の藩政改革～

なぜ“松江侯は御内福”といわれるほど豊かな藩になったんだろう」

2. 授業の構想

- (1) 本校の2年生は、学習指導要領社会編の内容項目(4)ーエ「社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる。」を終え、「欧米諸国のアジア進出」までを学習したところである。

内容項目(4)ーエのうち天保の幕府の改革と諸藩の改革については、幕府、長州藩、薩摩藩、肥前藩、土佐藩、水戸藩、越前藩が外患内憂に対してとった対策を、班で分担して図書室を活用して調べ、班内で相互に発表をしてから、藩政改革に成功したといわれる藩の共通点を各自まとめた。まとめの中には「専売制を強化した藩が成功している」「借金を長い時間をかけて返すきまりをつくっている」「西洋の武器を取り入れ軍事力を強化している」「外国と貿易して利益を上げている」「能力ある人を高い地位につけて改革した」などの記述が見られた。このことから、藩財政を立て直すためには、年貢米に頼るだけでなく、現金収入の得られる商品経済を振興することが大切であることは、ほぼ理解していると考えられる。

- (2) 松江藩は、藩財政の破綻にともない1746年（延享3年）から6代藩主松平宗衍が中老小田切備中を補佐として親政による財政改革を行った。この改革を御趣向の改革いう。この改革では、義田法と称して豪農に多額のお礼米を出させる代わりに、年貢を免除するという方法で臨時収入を得たり、新田方を設け、新田開発をした新田を豪農に売り、無税地としたり、泉府方を設け豪農・豪商から出資を募り一般に貸し付け、利息の半分を上乗せして出資者に返すという政策がとられたが、いずれも問題の先送りにしかならず改革は行き詰まった。

このような状況下、家老朝日丹波郷保は1767年（明和4年）の宗衍隠居後、7代藩主松平治郷のもと御立派の改革とよばれる改革に着手した。利息付借金制度の廃止や、義田、新田方の廃止、闕年と称する棄捐令を出すなど、豪農・豪商が儲ける仕組みをとことん排除した。また、下級武士の人員削減などを実施し経費削減を図り、徹底した勸農抑商主義

を取り、藩財政を立ち直らせたと紀功碑などに記録されている。

しかしながら、本当に御立派の改革で藩財政は立ち直ったのだろうか。朝日丹波郷保の引退後、松平治郷は親政を行い、御趣向の改革時に始められた「木実方」「釜甌方」などの藩営専売事業を生かして、利益を上げている。1757年（宝暦7年）藩内に植えられた榎の木は8万8千本余りと記録されており、この榎の実を藩で買い上げ、ろうそくへの加工と販売を請負商人などに独占させた。時代の先を行っていたともいえる御趣向の改革時の積極的な商業政策がなければ、幕府や諸藩が財政難に陥っていた天保年間に“松江候は御内福”とうわさされるほどの財政黒字はなかったであろう。

- (3) 附属学校園社会科部では、現在「思考力・判断力・表現力を育てる学び合いのあり方」について研究を進めている。その中で、教師の行うはたらきかけの重要性を再認識しているところである。今回の授業においても、「なぜ、どうして（そう考えるの?）」という発問による思考の掘り下げと、思考を揺さぶる他の視点からの見方や考え方の提案を大切にしたい。具体的には、石碑という地域教材を導入として活用し、「藩主の墓所に顕彰碑が立っているのだから、この人の政策が財政を再建したのだろうか」という予想を立てさせる。そのあと碑文から、商業抑制策をとったことを確認し、既習の知識とのずれから思考を揺さぶり、課題意識をもたせたい。また、財政再建の推移の理解を助けるために『出入捷覧』にみる松江藩の財政状況のグラフを利用したり、木の実方の理解を助けるため木の実方の古地図や写真、榎の実や和ろうそくの実物教材を用意したりして、生徒の疑問に答えたい。

今回の公開授業の研究の視点は「子どもの思考を促す発問の構成」である。教師のはたらきかけが、生徒が本時の目標を達成するための思考を促すものになっていかを、ぜひ御協議いただきたい。

3. 目 標

財政悪化により幕府や諸藩が改革に取り組んだ天保期に、なぜ松江藩は黒字財政を維持できたのかを、これまでの学習で習得した知識をもとに予想し、資料で確かめ、根拠をもって自分の言葉で説明することができる。

4. 本時の展開

教師のはたらきかけ	予想される生徒の反応	指導上の支援・留意点、資料
<p>松江藩7代藩主松平治郷の墓所の近くにある石碑は、どのような人物の顕彰碑だろう。</p> <p>なぜこの場所に建てられたのだろう。</p> <p>朝日丹波郷保はどのようにして松江藩の財政を立て直したかを予想しよう。</p> <p>碑文には何が書いてあるのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治郷の命を助けた人物 ・ 治郷の茶道の師匠 ・ 治郷の政治を助けた人物 ・ 松平家の親戚だから ・ 大変功労があった人物だから ・ 専売制を行った ・ 位が低くても能力のある人に改革を担当させた ・ 借金を帳消しにした ・ 外国と貿易をおこなった ・ 借金の利息を免除してもらう ・ リストラ ・ 裕福な農民・商人から税を取る ・ 新田開発などの農業振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松平治郷について簡単に説明をする ・ 月照寺の場所や、墓所と石碑の位置関係のわかる写真（資料7）をパワーポイントで示す ・ 『『出入捷覧』にみる松江藩の財政状況』のグラフにより、松江藩の財政が好転していることを確認する ・ 他藩の改革を参考にして考えるよう促す ・ 朝日丹波郷保の「御立派の改革」の御立派とは、「襟を正し、王制の根本をふまえる」

<p>松江藩は対外負債50万両を返却するだけの収入をどうやって得ていたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業抑制 ・ 新田開発などによる年貢米の増収 ・ 北前船をつかって特産物を大阪で売っていた ・ 専売制を行って高く特産物を売った ・ 御立派の改革より前に植えた人がある ・ 商業振興策を取った人もいたのではないか 	<p>という意味であることをおさえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天保年間の一両は現在のおよそ30万円であることを伝え、膨大な借金であることをつかませる ・ 『雲陽国益鑑』で出雲国の主要産業を確認する ・ 主要作物として榎の実を取り上げ、実物教材や写真で榎の実の値打ちがわかるよう支援する ・ 中老小田切備中尚足の、時代を先取りしたアイデアを簡単に説明し、彼の墓所の場所と写真を確認する ・ ワークシートにまとめてから発表するよう伝える
<p>御立派の改革では、商業抑制策を打ち出しているのに、榎の実などの専売が利益をあげているのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倹約、引き締めの改革と、商人と協力した商業中心の改革の両方で成功した 	
<p>なぜ松江藩は黒字財政を維持できたのかを自分の言葉で説明しよう。</p>		

5. 評価の観点

- ・ 天保期に松江藩が黒字財政を維持できた理由を、これまでの学習で習得した知識をもとに予想することができたか。
- ・ 天保期に松江藩が黒字財政を維持できた理由について、友達の予想や資料をもとに考え、自分の言葉で説明することができたか。

6. 資料出典

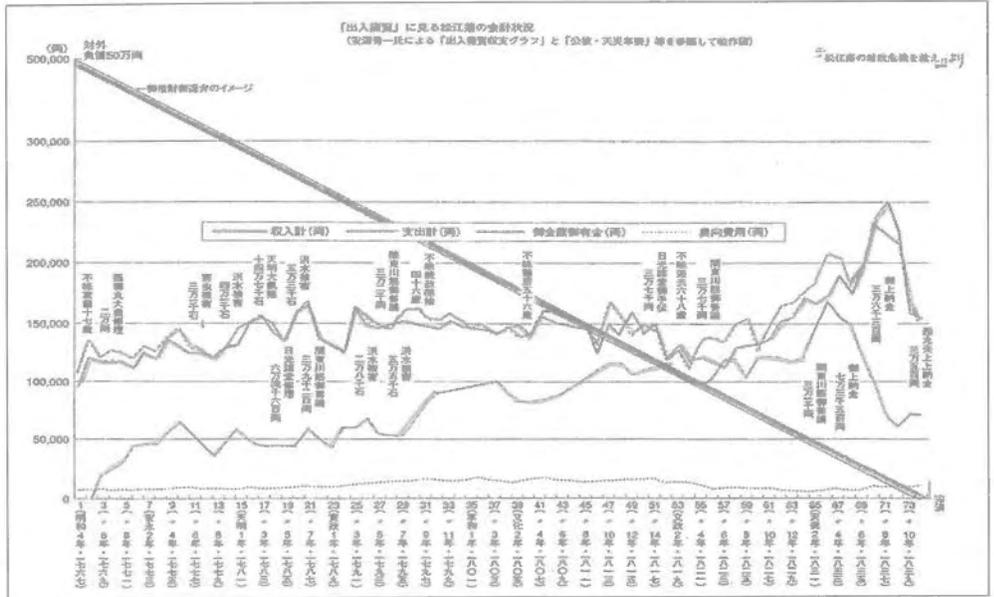
『松江藩の財政危機を救え』 乾隆明著・・・『『出入捷覧』にみる松江藩の財政状況』のグラフ (資料8) 『雲陽国益鑑』 (資料9)

『松江市誌』 松江市編・・・朝日丹波郷保顕彰碑碑文 (碑文の現代語訳は島根大学教育学部長谷川博史教授による) (資料10)



(資料7)

(資料8)



(資料9)

出雲国の国益になる産業を紹介した「雲陽国益鑑」

東					西				
大関	開廊	小結	前頭	前頭	大関	開廊	小結	前頭	前頭
木綿	中町他国出古手	御禮人參	綿打弦	一畑蒸餾	鉄山爐	大社搜所配札	不実方蠟	牛馬ノ代紙	三十三番札所
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
松江ノ他国間屋	他国番船賃	三保間參物	玉造温泉	八軒屋町宿料	杵築宿料	杵築富歩一	日御崎參物	杵築遊所	大池板津ノ商人
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
荒嶋石	襦袢之舖	安来間屋	松江乃筆	宇龍間屋	来待石	浦々の和布	三保間問屋	古志の煙草入	馬瀧問屋役紙
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
新山ノ三	森心ノ木	浦東ノ草	御禮ノ貝	雲津ノ屋	東津ノ小倉	七保問遊所	山口傳十	山口傳十	本庄の干海老
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米	尾道御廻米

大社折禱參物

元道御廻米

『松江藩の財政危機を救え』より

○出雲故國相朝日夫子紀功碑 (月照寺)

(前略)
明和五年、復召至東邸、親驗意曰、我藩倉庫懸罄、國非其國、

(中略)

我言欽承命、泣下交頤、還過浪華、厲藩財主而諭之、時負債雲擾、法華最多、夫子約以無加恩、陸續償之、

又定浪華米額、預擬其價、以當東邸費責、使藩財主司之、月以已金替、輸送東邸、故加恩償之、以察財主之心、盡備不虞也、舍之内、無所假貸、

九月自浪華歸、大革庫政、首應銀鈔、去冗費、併合數職于能者、以省官員、沙汰徒衛以下冗吏、諸不中用者悉黜、

十郡民長、豪農富賈、嘗以永不稅、買公田、

且輸粟出賞以受職取俸者、並皆奪之、以挫其驕奢、凡民間所負諸債、無久近多少一切除放、

十二月天隆公老于東邸、世子代侯、任夫子稱不貳、

蓋自是修田疇、正稅則、抑商賈、勉農圃、改鑄山制、異常平急、

兼置治標、造清米船、理賑備等、善政遂廣而興、

其明年、夫子嬰恙、臥數月、欲請免、諸相留之、(中略)

是歲復養倉、書畫以備教諭、

安永二年秋、舉大川役、

先是、明和庚寅秋、興大川役、中洲一百餘所、碓島一鄉、

及長橋以東新田、障水行者悉皆除之、

又神門橋縫間、築壇土堤者、広二丈許、長二里而廣、至是畢功、

(前略)

明和五年、再び召されて江戸屋敷へ行く。(松平宗衍から、国政改革の担当を命じられる)

(中略)

つつしんで拜命し、顔を涙に濡らした。舟途に大坂に寄り、松江藩に債権をもつ蔵元諸銀主を説得した。その頃の借金は大変ひどい状態で、特に大坂は最多。そこで利息を免除してもらって、次々と返済した。また、毎年の登米額を定め、価格を想定して、これを江戸藩邸経費にあて、諸銀主に司らせ、月割で江戸へ送り、利息付きで返済した。これにより諸銀主の信用を確保し、後顧の憂いを断った。

松江藩中の借金は無くなった。九月に大坂から帰り、赤字財政を立て直した。銀札の廃止をはじめとして、俵約や役職の合理化をすすめ、それによって、官吏を減らし、御徒などで用に達さない余分な官俸を排除した。

下郡・与頭、裕福な農民・商人は、以前より不課税で、田地を買得し、俸給もそのまま受け取っていたので、もってその驕奢を挫いた(郡役人の更迭) およそ民間の借財は、その期間の長短や額の多少に関わらず、すべて免除した(翌年令)

十二月、宗衍は江戸藩邸において老衰し、世子治郷に家督を譲り、丹波にすべてを託した。これより、田や囃を改修し、税制を正し、商業抑制、農業振興、鉄山支配の改制、常平倉の再建、堀浚え、橋の維持管理、米廻船の建造、投書箱の設置など、善政は繰をおつて進められた。

(以下、たびたびの辞職願を、悉く許されず) (中略) この歳(安永元年、一七七二)には、養倉を復興し、麦を蓄えさせて飢饉に備えた。

安永二年秋に、大川普請が完了した。これはその三年前から始めた土木事業で、城下の中洲百余ヶ所、碓島一郷、及び大橋以東の新田において、水上交通の支障をすべて取り除いた。

また、神門郡・堀縫間築の斐伊川の堤防工事は、幅六m余、長さ八mほどに及び、事業が完了した。

注釈

大坂・明治4年までは大坂をこのように記した。
蔵元諸銀主・蔵屋敷の出納を管理し、不足分を貸した町人
登米(のぼせまい)・大阪の蔵屋敷に運ぶ年貢米
銀札(おんせり)・江戸時代、諸藩が発行した銀貨代用の紙幣
御徒(おんせり)・役人のこと
官吏(おんせり)・騎乗を許されない下級の武士
堀浚え(ほりざらえ)・おついでにせいたくなこと。
普請(ふしん)・土木工事のこと。

※本資料は、島根大学教育学部 長谷川博史教授の御協力により作成しました。

(資料10)

○生徒のワークシートへの記述から。

なぜ松江藩は、天保年間（1830年～）に黒字財政を維持できたのだろうか？
 銀札の廃止や役人を減らすことで検約や役職の合理化をすすめ、ぜいたくの禁止もした。松平宗信の時代には木炭や人参を多くを売り、瀬川朝
 鮮人参などの特産品を生産・販売し入坂へ移出することで専売をおこなった。
 松平不昧は洪水対策をし、新田開墾をすることで米の生産をすすめた
 がこの時代に専売品の利益が出た。松平不昧が家督を継いだ
 時に50万両もの負債があったが、利息を免除してもらった。借せ米を決
 め価格を想定することで月ごとに定額を返済できるようにした。
 このように検約をすすめ、農業振興と商品作物の専売で利益を得て、計
 画的に借金を返済することで黒字財政を維持できた。

2年 予組 番氏名

小田切備中尚足が収入をつくり、朝日丹波郷保が支出をさけ、支出をさけることと収入を得ることを同時におこなうことができたからだと思います。小田切さんが植えた木が朝日さんの改革の時に成長し、よいタイミングだったと思います。松江藩の財政改革は2人の二人三脚だったのだと思います。(F・H)

小田切氏の改革でろうそくなどの収入がたくさんあったから。朝日氏の改革は、節約したり有能な人を使ったりして支出を減らせるように。小田切氏の収入アップと朝日氏の支出ダウンの改革の2つがあったからこそ黒字になった！(H・K)

② 「西南戦争戦没者慰霊碑」を使った授業実践

平成24年田原坂を訪ねた際、薩軍、官軍別に出身県ごとに戦没者名が刻んである慰霊碑を見た。生徒は1年生の時遠足で松江城山にある慰霊碑を見ている。しかし、島根県出身者はどちらの軍で戦ったと思っているのだろうか。どちらの軍で戦ったかが分かることが、西南戦争の意義を理解することにつながると考え、松江城山と田原坂にある2つの慰霊碑を使った授業を行った。

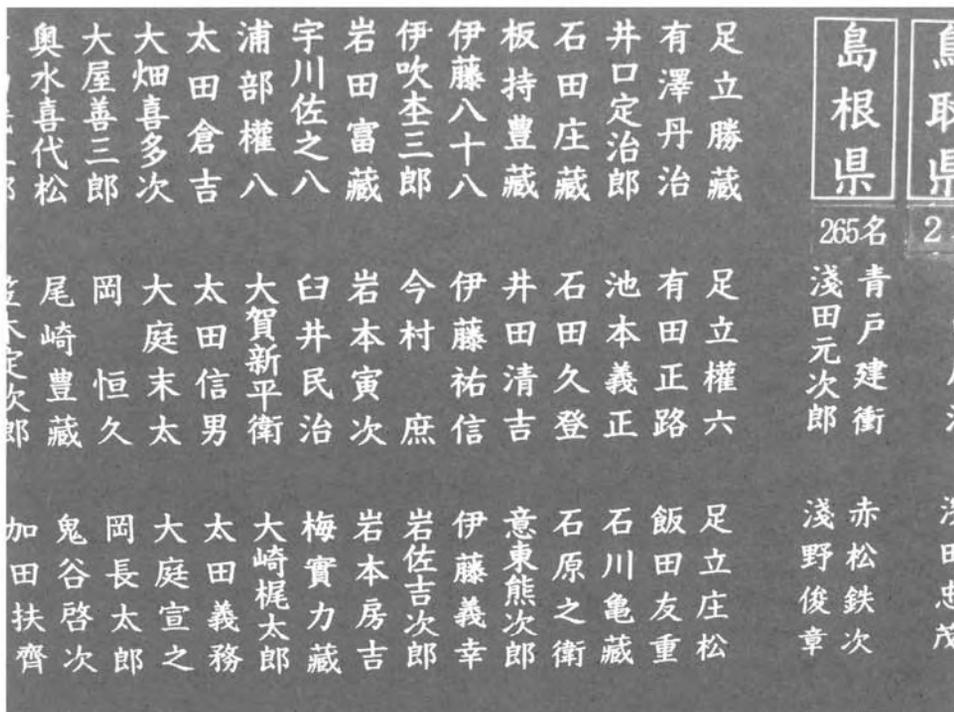
1. 単元名 「西南戦争後、士族の反乱が起きなくなったのはなぜだろう」

(基盤、目標、評価は省略)

2. 本時の展開

教師のはたらきかけ	予想される生徒の反応	指導上の支援・留意点、資料
この頃、士族が各地で反政府の戦いを起こした。なぜ士族は反政府の戦いを起こしたのだろう。	・徴兵制・廃刀令・秩禄処分などにより、特権を奪われ不満をもっていたから。	
最大の戦いは西南戦争とよばれている。資料をみてどちらが士族軍かを考えて、理由とともに発表しよう。	・着物を着ている側。新政府軍は西洋式の軍服だから。 ・自分たちは武士だというこだわりを感じるので、刀を差してちょんまげをゆっている側。	資料：西南戦争図 (田原坂資料館蔵・教科書) ○田原坂資料館で撮った写真資料を使い西南戦争について簡単に説明をする。

<p>地図で主戦地である田原坂を探そう。</p> <p>九州でおきた戦いなのになぜ松江城内に西南戦争戦没者慰霊碑があるのだろうか。</p> <p>なぜ松江藩の人がこの戦いに参加しているのかを予想しよう。</p> <p>田原坂にある西南戦争戦没者慰霊碑の写真を見て予想を確かめよう。</p> <p>この戦いを最後に、士族の反政府の戦いはなくなり、言論による反政府運動がさかんになる。なぜ戦いはなくなったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県にある。 ・西郷隆盛がリーダーだから鹿児島だと思っていた。 ・島根県の人もこの戦いで亡くなったから。 ・島根県の士族も不満を持っていたから西郷さんと一緒に戦った。 ・徴兵された人が新政府軍として戦った。 ・新政府軍に島根県の名前がある。島根の他にもたくさんの方の県出身者がいる。 ・士族軍はほとんど鹿児島県の人である。 ・士族の反乱に全国から徴兵された新政府軍が対戦したことがわかった。 ・1つの藩の出身者だけで戦っても全国から集められた兵隊には勝てないから。 ・組織で近代的に戦う軍には勝てないから。 	<p>○1年生の遠足時に見た石碑であることを伝え、写真で示す。</p> <p>○官軍（新政府軍）戦没者が県別に、薩軍（鹿児島軍）が郷（村）別に彫られていることを確認する。（資料11）</p> <p>○ワークシートに今日の授業でわかったことをまとめるよう伝える。</p>
--	--	--



(資料11)

○生徒のワークシートの記述から

「西南戦争では全国から人々が動員された」ということは、よく知られており、僕もある程度は分かっていたが、実際は島根県からも何百人も人が送られていたことは初めて知った。

行った人の名前などがきちんと石碑に彫られて残っているというのには驚いた。(H・K)

西南戦争は鹿児島のことなので島根県はあまり関係ないと思っていましたが、参加していたのかとおどろきました。遠足で見たのにあまりはっきり覚えていなかったので城山に西南戦争に関係するものがあるのが意外でした。本当に全国から集められたと分かったので、とても士族では勝てないと思います。だから士族の反乱は終わったのだと思う。(N・K)

③ 「拓魂（満蒙開拓青少年義勇軍慰霊碑）」を使った授業実践

この慰霊碑を定期的に掃除をしておられる元義勇軍隊員のFさんにご協力いただき、平成14年にビデオ撮影し、DVD教材として編集した。このDVDにはFさんが慰霊碑を掃除しておられる様子、慰霊碑への思い、慰霊碑の説明、「満州」での体験談に加え、Fさんが参加した義勇軍中隊の記録集からの写真や地図も取り入れた。この授業では、戦争を自分の身近なこととして考えることができるよう、慰霊碑や碑文自体より「慰霊碑を掃除するFさんの姿」を教材とした。

1. 単 元 名 「なぜFさんは満蒙開拓青少年義勇軍に参加したのだろう」

(授業時はFさんは実名)

(基盤, 目標, 評価は省略)

2. 本時の展開

教師のはたらきかけ	予想される生徒の反応	指導上の支援・留意点, 資料
<p>どのような目的で、関東軍は「満州国」を建国したのだろう。</p> <p>「満州国」にはどのような人が住んでいたのだろう。</p> <p>戦争が長期化して食料や兵力が不足したとき、「満州国」ではどのようなことが起こったかをDVDで見てみよう。</p> <p>食糧不足をどのように解消しようとしたのだろう。</p> <p>兵力不足をどのように解消しようとしたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は食糧不足・資源不足だったので、どうしても「満州」を手に入れたかったから、溥儀を皇帝にして「満州国」を建国した。 ・日本の生糸をつくっていた農家の人たちが移民した。 ・満州民族。 ・満鉄で勤めていた人 ・関東軍 <ul style="list-style-type: none"> ・開拓団だけでなく国民学校を出たばかりの14歳の子どもも「満州国」に行かせて農業をさせようとした。 ・義勇軍の子どもに、銃を持たせてロシアの国境警備をさせたりした。 	<p>○前時の授業を振り返るために、できるだけ自分の言葉で長く説明するよう伝える。</p> <p>○「五族協和」を理想としていたが、実際はもともと住んでいた住民や抗日軍と移民の間で争いも起きていたことを伝える。</p> <p>○13分に編集したDVDを見る。</p> <p>○「島根県からの義勇軍参加者数」のグラフを示し、Fさんと同じ体験をした人が多くいたことに気づかせる。</p> <p>○義勇軍での生活のイラストから警備の様子をイメージさせる。(グラフ, イラストは県版資料集「島根のあゆみ」新学社より)</p>

<p>なぜFさんは満蒙開拓青少年義勇軍に参加したのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生が勧めたから。 ・日本の苦しい状況を抜け出すため。 ・王道楽土だと信じていたから。 ・兵隊にあこがれていたから。 	<p>○ワークシートに今日の授業で考えたことをまとめるよう伝える。</p>
-----------------------------------	---	---------------------------------------

○生徒の感想から

<p>島根県からも3000人近く若い人たちが満蒙開拓青少年義勇軍として行っていることを知り、すごくおどろきました。また、行った人たちもたくさん亡くなったり、捕虜になったりと政府が行く前に言ったことと全く違うことが起きて、Fさんの話を聞いても、すごく苦労したことがわかりました。またFさんが掃除をしているのは、亡くなった方や開拓によって犠牲になった人たちを思っているからだと思いました。(S・R)</p>
<p>16歳ぐらいの人たちが満州に渡ったのは、とても大きな決心が必要だったと思う。私たちと年が近い人たちがそんなことをしなければいけなかったということが分かる石碑だと思う。 (O・M)</p>

3 まとめ

3回の授業終了後、石碑を使って授業することについて平成24年度本校2年生徒にアンケート調査をおこなった。アンケートは「わかりやすい」「どちらともいえない」「わかりにくい」の3つの選択肢から1つ選んだ理由を記述する形式でおこなった。(アンケート回答数132) その結果、選択肢についてはグラフの通りであった(資料12)。次の2つの記述は「わかりやすい」と答えた生徒の理由である。

島根の私たちの身近な地域の歴史について、とても興味が出ます。また、身近な地域にある石碑などで授業で習った歴史と関連づけて考えられて授業で習った歴史が「本当にあったことなんだ」と改めて実感できます。

そして、それに関係する歴史を調べたり、石碑の実物を見てみたくあります。

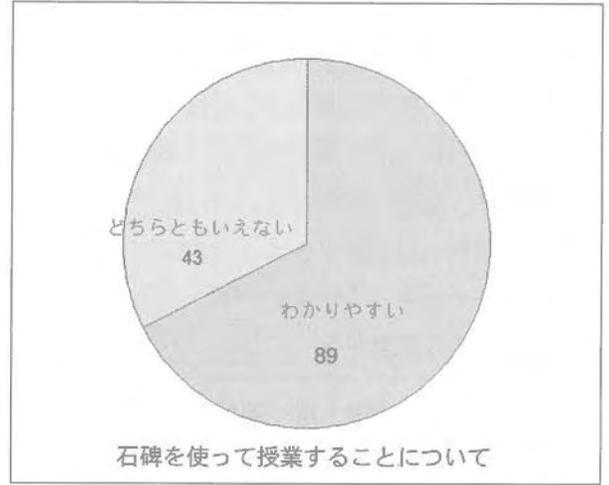
歴史に興味が出て、とてもおもしろいので石碑を使っての授業はよいです。

ただ単純に当時のことを教科書などから知るだけでなく、僕達でもかんたんに見ることができ石碑から読み取っている。このことで、その授業の内容が、とても身近に感じられるようになった。また、「石碑に残す」というところまでの、先人達の努力が目に見える形で実感できたのも良かった。実際に見たことのある石碑だとより興味を持って取り組めた。(H・K)

「わかりやすい」と回答した生徒の多くは、同様に「歴史を身近に感じられる」「本当にあったことだと実感できる」と理由を述べている。また、「なぜ石碑を建てたのか、背景を知りたくなる」というように歴史的背景や因果関係などの追求意欲につながる理由を挙げた生徒もいた。

「どちらともいえない」と回答した生徒の多くは、「歴史を現実的に受け止められるが、昔の言葉で書いているものは理解できなかったりする」というように、碑文のわかりにくさを挙げていた。

アンケートの結果とそれぞれの授業時の記述から、私が予想していた以上に、身近な地域の石碑は、生徒が歴史を身近に感じる教材として有効であることが分かった。



(資料12)

おわりに

初めて石碑に興味をもったのは、今から10年以上前に島根大学大学院で学んでいた頃である。平成9年の全国中学校社会科教育研究大会島根県大会で、島根県ゆかりの「雪舟」を教材として授業をさせていただいた私は、生徒が興味・関心をもち意欲的に学習に取り組むためには地域教材が大変有効であることを実感するとともに、生徒にとっての「身近さ」は地域という空間的な近さと、年齢という精神的な近さにあるのではないかと考えた。そこで大学院では、戦争当時生徒と年齢が近かった満蒙開拓青少年義勇軍として、島根県から旧満州に渡った方への聞き取り調査をもとに教材を作成し、実践研究を行い検証を試みた。その聞き取りの中で出会ったのが、松江護国神社前の「拓魂」という石碑だった。

この石碑について詳しく教えていただくため、当時松江郷土館館長であった安部登先生を訪ねた際、「教材になる石碑もたくさんあるので調べてみたらどうか」とアドバイスをしていただいた。そして先生自身が調査された松江市内の石碑の一覧表をくださった。この一覧表をもとに松江城周辺（松江市立第一中学校校区）の70余りの石碑を1つ1つ訪ね、写真に納め、教材化しやすいようデータベース化した。

こうして作成したデータベースを、社会科、選択社会科のみならず特別活動、総合的な学習の時間で活用してきた。今回その実践の一部をまとめることができ大変嬉しく思うが、教材としての価値を十分検証していくためにはどのような方法があるか、今後も石碑の有効な活用を考えていきたい。

(たけさき ようこ 社会科)